

## ゼロから始める留学生活

Medical University of South Carolina

阿部 健太

(東北大学大学院生命科学研究科)

私は2019年4月から米国チャールストンのサウスカロライナ医科大学の佐藤隆先生のラボにて運動機能の制御に重要な神経回路メカニズムを2光子イメージングなどの技術を用いて研究しています。留学時に何人かの方々から「元々、留学希望だったのですか？」と質問を受ける機会がありましたが、私の場合はたまたま頂いたチャンスが海外留学だったという感じでした。大学院時代の私は卒業の時期に差し掛かってもした研究業績を挙げられず、自分でフェローシップを獲得して行きたいラボに乗り込むといったカッコいい技は自分では厳しいかなと思っていました。当時の私は、何かチャンスが巡ってきたらその時は日本だろうが海外だろうが何処にでも乗り込んでやろうという決意はしておりました。そんな時に頂いたお話が現在のラボでした。佐藤先生は2光子イメージングの実験で画期的な研究成果を多く発表している Karel Svoboda 博士の研究室の出身であり、私自身も大学院生時代に Svoboda 研の論文はいくつも読んでいましたが、こういう一流ラボで活躍している日本人がいるのかすごいと思っていましたが、正直自分とはあまり縁はないかなとも思っていました。しかし、そんな中まさかのチャンスが巡ってきました、絶対にここで仕事を獲るぞと決意をし、当時のラボが所属していたドイツのチュービンゲン大学に乗り込みました。そして佐藤先生と色々話をしていくとスポーツがすごく好きだということが判明しまして、色々なスポーツ談義で盛り上がることができました。私自身も学生時代はサッカー部に所属して全国大会にも出場した経験がありますと話をしたら、その体力を是非うちの研究室でも発揮して下さいという形で話がまとまりました。まさか、学生時代の部活でサッカーをしていた経験がこんな形で役立つ日が来るとは思いませんでした。改めて学んだ経験がどのような形で役立つのかはわからない、人生とは不思議なものだなと感じております。

そしてポストク生活が始まったのですが、留学当初はマウスの行動実験の経験なし、2光子イメージングの経験なし、英語力死亡という我ながらこのスキルで留学を決意した度胸だけはすごいなと感心しています。まさに“ゼロから始める留学生活”でした。特に最初の方は2光子イメージング用の craniotomy 手術が上手くいわずに自分の力不足を痛感する精神的に辛い毎日でしたが、私が好きな某漫画の人気キャラの言葉である“不足を確認して現状を嘆くのは大事な儀式だ”という言葉が私を励ましてくれました。そして、初めて自分でトレーニングと手術を行なったマウスでの2光子イメージングで細胞が見えた時は感動しました。

そんな感じで、現在もいろいろなことと格闘しながら研究生生活を過ごしております。最後になりますが大した研究業績もないにもかかわらず、支援してくださった上原記念生命科学財団の皆様、本当にありがとうございます。



チャールストンの街並み